



## 希望を語る言葉の大切さ

校長 武田 泰之

私たちが毎日使っている言葉。言葉は、音声や文字で相手に伝わります。言葉を伝えるツールは昔に比べて増えています。手紙や電話だけでなく、メールや SNS など、多くの人達とつながることができるようになりました。だからこそ、言葉で自分の考えや思いを伝えるときには、明確に相手意識をもつことが大切になります。よりよい人間関係作りにおいて言葉は大きな役割を果たします。言葉の使い方を誤ると、相手に正しく思いが伝わらないだけでなく、誤解を招いてしまう場合があります。前向きな言葉は、努力する人の背中を押して勇気を与えてくれます。一方で、何気ない否定的な一言は、マイナスな気持ちを与えてしまったり、やる気を奪ってしまったりすることがあります。

**努力する人は希望を語り、  
怠ける人は不満を語る**

1976年に文化勲章を受賞し、文化人として国内外で活躍した小説家である井上靖氏の言葉です。私の好きな言葉の一つです。井上氏のこの言葉から、努力と希望、怠

惰と不満は表裏一体であると考えていたことが分かります。人はつつい物事の不満にばかり目を奪われ、楽な方へと逃げてしまいがちです。しかし、人が全て、不満ばかり感じているわけではありません。必ず、人知れず努力して輝いている人が、近くにいるはず。そして、その輝きは、不満に目を向けているのではなく、希望と謙虚さを持って前向きに様々な事柄に取り組んでいる姿勢から生まれるのだと思います。何事に対しても不満ではなく、希望に意識を向ければ、きっと明るい方向に物事は進んでいくはず。私たちに必要なのは、「希望に目を向ける」という意識だと思

うのです。

11月8日(金)快晴の天候に恵まれ、埼玉県小学校体育連盟主催「第55回小学校体育授業研究会」がおよそ130名ほどの参



【跳び箱運動に取り組む6年生の様子】

【ハードル走に取り組む5年生の様子】

加者を迎え、本校を会場に行われ

ました。6年5組「跳び箱運動」、5年4組「ハードル走」の授業を公開し、授業後、教員がよりよい授業の在り方等について協議しました。授業では、子ども同士が「すごいね、手の着き方が跳び箱の手前でとてもよかったよ。」「3歩のリズムがいいよ。もっと振り上げた足を高くあげるといいよ。」など、お互い認め、高め合う言葉がたくさん聞こえたと話題になりました。子どもたち同士がお互いを尊重し、アドバイスし合うことで、自分自身の力をもっと伸ばそうと向上心をもって取り組むことができていたというのです。まさに、前向きな言葉で希望を語り合い、精一杯友だちとともに努力し伸びようとする子どもたちの姿が見られたのです。

2学期の教育活動を振り返ると、体育の授業はもちろんのこと、日々の授業において、明るく夢や希望を語る多くの大砂土東小学校の子どもたちの姿を見ることができたと思っています。3学期も引き続き、一人ひとりが目標に向かって努力できるよう教職員が一丸となって子どもたちの支援を続けてまいります。

いよいよ令和6年も終わりを告げようとしています。2学期も保護者の皆様(PTA、各種ボランティアでご協力いただいた皆様)、地域の学校運営協議会の委員、防犯ボランティア、交通指導員の皆様など多くのご関係の皆様には、たくさんの温かいご声援や励ましのお言葉をいただきました。子どもたちにとって、また我々教職員にとっても、応援していただけることは、たいへんうれしく励みになります。皆様の絶え間ないお力添えとご支援に心より感謝申し上げます。来年が皆様にとって更によりよい年になりますようお祈り申し上げます。どうぞよいお年をお迎えください。